



シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3361		
科目名	国際地域研究 1 (アジア・オセアニア)		
担当教員	牧 杏奈		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 4		
講義室	1311	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連 A1 グローバル感覚 (15%) A2 異文化適応 (15%) E1 学識と専門技能 (40%) I1 理解・分析と読解 (20%) I3 情報分析 (10%)		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	国際安全保障及び海外での危機管理を学ぶためには、それぞれの地域がおかれている状況や文化、歴史について知る必要があります。それぞれの地域における政治的、経済的、文化的状況や、それぞれが持つ宗教問題、人種問題、独立問題など特殊な事情について具体的に学ぶことにより、安全保障や危機管理に活かすことが可能となります。ここではアジア・オセアニア地域について学び、理解を深めることを目的とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき、効果的な授業方法として、または授業を補完・代替するために、オンライン授業（オンデマンド型またはライブ配信型）を取り入れる場合があります。 ■ キーワード：植民地主義、ポスト植民地主義、民族主義、異種混溶性		
授業の趣旨	■ 副題 アジア・オセアニアの歴史、文化、政治、経済に関する知識を習得し、多角的な視点から当該地域のリスク要因やその解消法を考える。 ■ 授業の目的 ①アジア・オセアニアの歴史的、文化的、政治的、経済的特徴を捉え、当該地域が抱える諸問題への関心を高め、多様な価値観を尊重しながら問題の解決策を考えられるようになる。 ②リサーチの方法、発表および質疑応答の形式、ディスカッションのルールなどに関する基礎		

	的な知識を習得し、それらの技能を実践して自らの考えを他者と共有できるようになる。 ■授業のポイント アジア・オセアニアを特徴づける「植民地主義／ポスト植民地主義」、「民族主義」、そして圧倒的な多様性（あるいは「異種混濁性」）を主軸として、当該地域の歴史、文化、政治、経済について議論し、多角的に考察します。						
総合到達目標	■受講生が多角的な視点からアジア・オセアニアにおける諸問題に対する効果的な解決策について考えるために、当該地域の歴史、文化、政治、経済的特徴に関する知識を習得するとともに、異なる価値観を尊重する態度を修得する。また、受講生が自らの考えを他者と適切に共有するために、リサーチの方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションのルールを知り、それらを実践する技能を修得する。 ・アジア・オセアニアの地域的特徴を自らの言葉で説明できる。（第2～4回） ・アジア・オセアニア各国・各地域の歴史、文化、政治、経済的特徴を自らの言葉で説明できる。（第5～14回） ・アジア・オセアニア研究に内在する特殊性や偏向性の問題について理解し、意識的に多角的な視点を適用することができる。（第1、4、15回） ・アジア・オセアニアにおける諸問題に対する考えを多角的な視点から述べることができる。（第6、8、10、12、14回） ・自らの問題意識をもとにリサーチを行い、発表・質疑応答などを通じて考えを適切に表現できる。（第6、8、10、12、14回）						
成績評価方法	■以下の方法で総合的に評価します。 「授業参加度」として、授業中の質疑応答における発言を重視します。 「授業内発表」として、各自がプレゼンテーションを行います。 「筆記試験」として、授業で解説した諸概念や専門知識を修得し、それらを用いて自らの考えを適切に言語化して表現できるか確認します。 ■（適用ルーブリック-割合）A1（15%）、A2（15%）、E1（40%）、I1（20%）、I3（10%） ■授業参加度(30%)、授業内発表(30%)、筆記試験(40%) （評価基準）発表では、「内容が的確にまとめられているか」および「プレゼンテーションの技法に間違いはないか」を特に重視します。 （フィードバック方法）授業内発表および質疑応答が終わった後、教員から評価を伝えます。筆記試験についてはポータルサイトを通じて解答を公表します。						
履修条件	特になし						
履修上の注意点	特になし						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス——「地域研究」とはなにか ②授業概要 当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法を明確に提示します。また、「地域研究」の意義や課題について、インドでの現地調査の実例を挙げて説明します。 受講生は、当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法について理解し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせることで、当科目を履修するか否かの判断ができるようになる（I1）。また、「地域研究」の意義や課題について説明できるようになる（A1、A2、E1）。 ③予習(120分) シラバスを読み、アジア・オセアニアの歴史、文化、政治、経済に関心を持つ。 ④復習(120分) シラバスと授業内容を再確認し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせ、当科目を履修する意義を検討する。また、「地域研究」の意義や課題について、理解した点・疑問点を記して明確にする。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 日本から見たアジア・オセアニア ②授業概要 アジア・オセアニアの基本情報や日本との関係について概説します。また、アジア・オセアニアに関する情報の調べ方を示し、グループ分けを行い簡単なリサーチをしてもらいます。さらに、発表や質疑応答の形式を示し、グループごとに短い発表を行ってもらいます。 受講生は、基本的なリサーチの方法と発表・質疑応答の形式を知り、それらを実践することができるようになる（E1、I3）。また、アジア・オセアニアを日本の視点から眺め </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス——「地域研究」とはなにか ②授業概要 当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法を明確に提示します。また、「地域研究」の意義や課題について、インドでの現地調査の実例を挙げて説明します。 受講生は、当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法について理解し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせることで、当科目を履修するか否かの判断ができるようになる（I1）。また、「地域研究」の意義や課題について説明できるようになる（A1、A2、E1）。 ③予習(120分) シラバスを読み、アジア・オセアニアの歴史、文化、政治、経済に関心を持つ。 ④復習(120分) シラバスと授業内容を再確認し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせ、当科目を履修する意義を検討する。また、「地域研究」の意義や課題について、理解した点・疑問点を記して明確にする。	2	①授業テーマ 日本から見たアジア・オセアニア ②授業概要 アジア・オセアニアの基本情報や日本との関係について概説します。また、アジア・オセアニアに関する情報の調べ方を示し、グループ分けを行い簡単なリサーチをしてもらいます。さらに、発表や質疑応答の形式を示し、グループごとに短い発表を行ってもらいます。 受講生は、基本的なリサーチの方法と発表・質疑応答の形式を知り、それらを実践することができるようになる（E1、I3）。また、アジア・オセアニアを日本の視点から眺め
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス——「地域研究」とはなにか ②授業概要 当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法を明確に提示します。また、「地域研究」の意義や課題について、インドでの現地調査の実例を挙げて説明します。 受講生は、当科目の到達目標、学習計画、授業運営、そして成績評価方法について理解し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせることで、当科目を履修するか否かの判断ができるようになる（I1）。また、「地域研究」の意義や課題について説明できるようになる（A1、A2、E1）。 ③予習(120分) シラバスを読み、アジア・オセアニアの歴史、文化、政治、経済に関心を持つ。 ④復習(120分) シラバスと授業内容を再確認し、自らの学修計画や希望キャリアと照らし合わせ、当科目を履修する意義を検討する。また、「地域研究」の意義や課題について、理解した点・疑問点を記して明確にする。						
2	①授業テーマ 日本から見たアジア・オセアニア ②授業概要 アジア・オセアニアの基本情報や日本との関係について概説します。また、アジア・オセアニアに関する情報の調べ方を示し、グループ分けを行い簡単なリサーチをしてもらいます。さらに、発表や質疑応答の形式を示し、グループごとに短い発表を行ってもらいます。 受講生は、基本的なリサーチの方法と発表・質疑応答の形式を知り、それらを実践することができるようになる（E1、I3）。また、アジア・オセアニアを日本の視点から眺め						

	ることで、相違性や類似性への理解を深め、国際的な連関について説明することができるようになる（A1、A2、I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、自らがどの国や地域に特に興味を持っているのか、またその国や地域の何に関心があるのかを考える。 ④復習(120分) リサーチの方法と発表・質疑応答の形式について改めて整理し、自らの授業内発表・質疑応答について、良かった点・反省点を記す。
3	①授業テーマ 「アジア・オセアニア」という枠組 ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の歴史、文化、政治、経済の概要を比較することで、その多様性（「異種混淆性」）について説明します。また、アジア・オセアニアに共通してみられる歴史的、文化的、政治的、経済的特徴として「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」について説明します。 受講生は、「アジア・オセアニア」という枠組を構成する基本要素について学び、自らの言葉でそれを説明することができるようになる（A1、A2、E1、I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの大枠を知る。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの多様性と共通項についてそれぞれ整理して記す。また、「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」について理解した点・疑問点を記す。
4	①授業テーマ 方法論としてのポスト植民地主義 ②授業概要 社会科学における方法論としてのポスト植民地主義について説明し、「地域研究」の課題とも関連する今日的な社会科学研究の課題を示します。また、そうした課題を乗り越える試みとしてインドで開始された「サバルタン研究」について説明し、その実践方法を示します。 受講生は、ポスト植民地主義の思想が社会科学の方法論にどのような影響を与えたかを理解し、今日的な社会科学研究の課題について説明することができるようになる（A1、E1）。また、方法論としてのポスト植民地主義を実践することで、自らの視座の特殊性や偏向性について自覚し、多角的な視点を意識的に適用できるようになる（A2、I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、植民地主義と社会科学の歩みとの関係性を知る。 ④復習(120分) ポスト植民地主義の思想が社会科学の方法論へ与えた影響と今日的課題について、理解した点・疑問点を記す。
5	①授業テーマ アジア・オセアニアの歴史（講義） ②授業概要 アジア・オセアニアの歴史を「植民地主義」および「民族主義」との関連から概説し、特にインドの事例については具体的な歴史的事象を挙げて詳説します。また、リサーチの方法と発表・質疑応答の形式について改めて説明するとともに、ディスカッションの基本的なルールを示し、いくつかのグループに分かれて次週の授業内発表へ向けたテーマ設定のための話し合いを行ってもらいます。 受講生は、「植民地主義」および「民族主義」の観点からアジア・オセアニアの歴史を概観し、その特徴について説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、ディスカッションの基本的なルールを知り、それに則り実践することができるようになる（I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの歴史に関する基本的な情報を知る。 ④復習(120分) 次週の授業内発表へ向けて、各自のテーマに関する下調べを行う。
6	①授業テーマ アジア・オセアニアの歴史（発表） ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の歴史について、グループごとに発表内容を最終確認したうえで、発表・質疑応答を行い、意見交換や相互評価を行ってもらいます。なお、1グループの人数、グループの数、発表時間などは、当科目の受講生の人数をもとに決定する予定です。また、フィードバックに関しては、発表・質疑応答終了後に教員から評価を伝えます。 受講生は、興味を持ってアジア・オセアニアの歴史について学び、多角的な視点からその特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチや発表・質疑応答、

	意見交換、相互評価などを通じて、情報の精査や分析を行い、自らが得た知識を言語化して他者と共有することができるようになる（E1、I1、I3）。 ③予習(120分) 各自のテーマに関する下調べを行い、発表の準備をする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの歴史について、理解が深まった点・疑問点を整理して記す。また、自らのリサーチ方法や発表の形式などに関して、良かった点・反省点を記す。
7	①授業テーマ アジア・オセアニアの文化（講義） ②授業概要 アジア・オセアニアの文化について「植民地主義」および「民族主義」との関連から概説し、特にバプア・ニューギニアの事例については具体的な文化的特徴を挙げて詳説します。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールを改めて提示し、いくつかのグループに分かれて次週の授業内発表へ向けたテーマ設定のための話し合いを行ってもらいます。 受講生は、「植民地主義」および「民族主義」の観点からアジア・オセアニアの文化を概観し、その特徴について説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールについて理解を深め、効果的に実践することができるようになる（I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの文化に関する基本的な情報を知る。 ④復習(120分) 次週の授業内発表へ向けて、各自のテーマに関する下調べを行う。
8	①授業テーマ アジア・オセアニアの文化（発表） ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の文化について、グループごとに発表内容を最終確認したうえで、発表・質疑応答を行い、意見交換や相互評価を行ってもらいます。フィードバックに関しては、発表・質疑応答終了後に教員から評価を伝えます。 受講生は、関心を持ってアジア・オセアニアの文化について学び、多角的な視点からその特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチや発表・質疑応答、意見交換、相互評価などを通じて、情報の精査や分析を行い、自らが得た知識を言語化して他者と共有することができるようになる（E1、I1、I3）。 ③予習(120分) 各自のテーマに関する下調べを行い、発表の準備をする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの文化について、理解が深まった点・疑問点を整理して記す。また、自らのリサーチ方法や発表の形式などに関して、良かった点・反省点を記す。
9	①授業テーマ アジア・オセアニアの宗教（講義） ②授業概要 アジア・オセアニアの文化的特徴のうち、とりわけ宗教に焦点を当て、「植民地主義」および「民族主義」との関連から概説します。特にオーストラリアの事例については具体的な宗教問題を挙げて詳説します。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールを再確認し、いくつかのグループに分かれて次週の授業内発表へ向けたテーマ設定のための話し合いを行ってもらいます。 受講生は、「植民地主義」および「民族主義」の観点からアジア・オセアニアの宗教について概観し、その特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールについて理解を深め、効果的に実践することができるようになる（I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの宗教に関する基本的な情報を知る。 ④復習(120分) 次週の授業内発表へ向けて、各自のテーマに関する下調べを行う。
10	①授業テーマ アジア・オセアニアの宗教（発表） ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の宗教について、グループごとに発表内容を最終確認したうえで、発表・質疑応答を行い、意見交換や相互評価を行ってもらいます。フィードバックに関しては、発表・質疑応答終了後に教員から評価を伝えます。 受講生は、関心を持ってアジア・オセアニアの宗教について学び、多角的な視点からその特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチや発表・質疑応答、意見交換、相互評価などを通じて、情報の精査や分析を行い、自らが得た知識を言語化

	して他者と共有することができるようになる（E1、I1、I3）。 ③予習(120分) 各自のテーマに関する下調べを行い、発表の準備をする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの宗教について、理解が深まった点・疑問点を整理して記す。また、自らのリサーチ方法や発表の形式などに関して、良かった点・反省点を記す。
11	①授業テーマ アジア・オセアニアの政治（講義） ②授業概要 アジア・オセアニアの政治について「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」との関連から概説します。特に中国・香港・台湾の事例については、具体的な政治問題を挙げて詳説します。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールを再確認し、グループに分かれて次週の授業内発表へ向けたテーマ設定のための話し合いを行ってもらいます。 受講生は、「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」の観点からアジア・オセアニアの政治について概観し、その特徴について説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールについて理解を深め、効果的に実践することができるようになる（I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの文化に関する基本的な情報を知る。 ④復習(120分) 次週の授業内発表へ向けて、各自のテーマに関する下調べを行う。
12	①授業テーマ アジア・オセアニアの政治（発表） ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の政治について、グループごとに発表内容を最終確認したうえで、発表・質疑応答を行い、意見交換や相互評価を行ってもらいます。フィードバックに関しては、発表・質疑応答終了後に教員から評価を伝えます。 受講生は、関心を持ってアジア・オセアニアの政治について学び、多角的な視点からその特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチや発表・質疑応答、意見交換、相互評価などを通じて、情報の精査や分析を行い、自らが得た知識を言語化して他者と共有することができるようになる（E1、I1、I3）。 ③予習(120分) 各自のテーマに関する下調べを行い、発表の準備をする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの政治について、理解が深まった点・疑問点を整理して記す。また、自らのリサーチ方法や発表の形式などに関して、良かった点・反省点を記す。
13	①授業テーマ アジア・オセアニアの経済（講義） ②授業概要 アジア・オセアニアの経済について「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」との関連から概説します。特にベトナムの事例については具体的な経済事情を挙げて詳説します。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールを再確認し、グループに分かれて次週の授業内発表へ向けたテーマ設定のための話し合いを行ってもらいます。 受講生は、「植民地主義／ポスト植民地主義」および「民族主義」の観点からアジア・オセアニアの経済について概観し、その特徴について説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチ方法、発表・質疑応答の形式、ディスカッションの基本ルールについて理解を深め、効果的に実践することができるようになる（I1）。 ③予習(120分) 事前配布資料を読み、アジア・オセアニアの経済に関する基本的な情報を知る。 ④復習(120分) 次週の授業内発表へ向けて、各自のテーマに関する下調べを行う。
14	①授業テーマ アジア・オセアニアの経済（発表） ②授業概要 アジア・オセアニア各国・各地域の経済について、グループごとに発表内容を最終確認したうえで、発表・質疑応答を行い、意見交換や相互評価を行ってもらいます。フィードバックに関しては、発表・質疑応答終了後に教員から評価を伝えます。 受講生は、関心を持ってアジア・オセアニアの経済について学び、多角的な視点からその特徴を説明できるようになる（A1、A2、E1）。また、リサーチや発表・質疑応答、意見交換、相互評価などを通じて、情報の精査や分析を行い、自らが得た知識を言語化して他者と共有することができるようになる（E1、I1、I3）。

	③予習(120分) 各自のテーマに関する下調べを行い、発表の準備をする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアの経済について、理解が深まった点・疑問点を整理して記す。また、自らのリサーチ方法や発表の形式などに関して、良かった点・反省点を記す。
15	①授業テーマ 総括——多様性のなかの民族主義と今日的状況 ②授業概要 これまでの講義と5回の授業内発表を振り返り、アジア・オセアニアの地域的特徴としてその多様性（異種混溶性）について改めて確認します。また、ポスト植民地主義的な今日的状況下での民族主義の多様なあり方について説明します。 受講生は、アジア・オセアニアの地域的特徴について理解を深め、自らの言葉で説明できるようになる（E1、I1）。また、アジア・オセアニアにおける民族主義を一元的にではなく相対化して多角的に理解することで、多様な価値観を尊重しながら自らの考えを述べるができるようになる（A1、A2、E1）。 ③予習(120分) これまでの講義と授業内発表を振り返り、理解した点・疑問点、および発表などに関して良かった点・反省点を明確にする。 ④復習(120分) アジア・オセアニアに関する鍵概念を整理し、自らの言葉で説明できるようにする。また、当科目を通じて得た専門知識を用いて、アジア・オセアニアの諸問題に対する自らの考えを明確に記す。
関連科目	「国際地域研究 2（中東・アフリカ）（RMGT3362）」、「国際地域研究 3（ヨーロッパ・ロシア）（RMGT3363）」、「国際地域研究 4（北南米）（RMGT3364）」、「比較宗教・文化論（RMGT3553）」、「国際協力論（RMGT3560）」
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配付します。
参考書・参考URL	参考文献・資料は、初回の授業で一覧表を配布します。 また、毎回の授業でも関連文献・資料を提示します。 アジア・オセアニアの文化や政治経済に関する最新ニュースは、以下のサイトなどで見ることができます。 World Voice (Asia Oceania) : https://www.newsweekjapan.jp/worldvoice/asia-oceania/ 毎日新聞（アジア・オセアニア） : https://mainichi.jp/asia-oceania/
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%；パブリックセキュリティ40%；グローバルセキュリティ40%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学80%；法学20%

